

中 学 校

平成24年度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

目 次

I	主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の方法	2
IV	研究構想図	3
V	研究の内容	4
1	調査研究	
	(1) 学級活動に関するアンケート調査	4
	(2) 教師の特別活動に関する実態調査	6
2	検証授業	
	(1)	8
	(2)	13
VI	評価の累積化について	18
1	評価資料の累積化の必要性	
2	評価の累積シート	
VII	効果の検証と提言	19
1	効果検証の概要	
2	効果検証の分析と考察	
3	研究の提言	
VIII	研究の成果と今後の課題	22
1	成果	
2	今後の課題	
補足資料	ジグソー法について	24

よりよい人間関係を築くための自主的・実践的な態度を

身に付けさせる学級活動の指導と評価の工夫

I 主題設定の理由

特別活動は、生徒が様々な集団に所属しながら、集団活動を通して、自らの個性の伸長を図ったり、社会生活に生きて働く社会性を身に付けたりするなど、生徒の人間形成を図る教育活動である。今次の改訂に向けては、中央教育審議会答申において、「特によりよい人間関係を築く力」や「社会に参画する態度や自治的能力の育成」の重視、「自主的、自発的な活動」が一層重視されることなどの基本方針が示され、目標に「人間関係」の文言が加えられた。このことにより、特別活動が集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる教育活動であることが明確に示されることとなった。同時に、中央教育審議会答申をはじめ諸調査からは、生徒が自分に自信をもてていなかったり、好ましい人間関係を築くことができていなかったりする現状が報告されている。また、今年度の教育研究員からは、集団の中での発言は一部の生徒に偏りがちで、自分の意見を十分に表現することができないといった現状も報告された。

他方で、全ての教科等において、教師は指導と評価の一体化について意識し、計画・実践をしていかなければならないが、教育研究員の間で意見交換した中では、各所属校において、必ずしも十分に特別活動のねらいの明確化が図られていないことや、平成22年に初等中等教育局通知で例示された「評価の観点及び趣旨」についての理解が希薄であったり、評価の三観点が示されていることに対する認識がされていなかったりする状況もあることが浮き彫りになった。さらに、特別活動の観点別学習状況評価においては、国語や社会等のように「十分満足できる状況(A)」「おおむね満足できる状況(B)」「努力を要する状況(C)」で評価するのではなく、「十分満足できる状況」と考えられる状況において「○」を付けることとなっていることについても、教育研究員の中でも認識が様々であり、所属校においても十分に認識されていないことが予想される状況があった。

また、担任等が行う特別活動の評価については、生徒に各活動の前後や活動中に「学級活動カード」や「振り返りカード」等へ実践する活動や実践した活動、感想等を記載させ、評価が行われているものの、その評価内容は担任の中だけで蓄積されており、指導要録や通知表に十分反映されていない可能性があるのではないかと、という意見も出された。その他、各取組における評価は適切に行われているものの、指導要録や通知表に反映させる段階で、それまでの評価資料の一つ一つを見直す作業を通して評価をしている現状もあり、各活動の評価を累積して効率的な評価活動が行われている状況は少ないのではないかとという予想が、教育研究員のこれまでの経験や所属校での現状から考えられた。

そこで、今年度の教育研究員中学校特別活動部会では、

- ・ 生徒に役割と責任を意識させて活動させることで自分に自信をもたせることが必要では

ないか。

- ・ 各活動の中で役割と責任が果たされれば、他の生徒から認められるとともに、互いに認め合うことができるようになるのではないか。
- ・ 各活動において、自己評価や相互評価の場面を設定して振り返りや他者評価を活用するとともに、生徒が行った評価を教師が活用することによって、生徒に自分の存在価値や達成感、充実感等を味わわせることが必要ではないか。また、このことは各自の自信や生徒同士の認め合いにもつながるのではないか。
- ・ 教師が評価の累積を行うことで、学年末等の評価活動の効率化を図り、妥当性を高めることが必要ではないか。

などの観点から、今年度の研究テーマを「よりよい人間関係を築くための自主的・実践的な態度を身に付けさせる学級活動の指導と評価の工夫」と設定した。

II 研究の視点

- 生徒に役割と責任を与え、話し合いの結果に対する自主的・実践的な活動を促すため、指導方法の工夫としてジグソー法を取り入れる。
- 生徒による自己評価及び相互評価の機会を設定するとともに、教師が生徒の評価を活用することで、生徒が自信を高め、認め合うことができるようにする。
- 教師による評価の累積を行い、評価の効率化と妥当性を高める。

上記の視点から、よりよい人間関係を築くことができるよう、学級活動（1）において取組を行う。

III 研究の方法

1 基礎研究

(1) 教育研究員の所属校における学級活動の取組・評価状況の把握

本部会教育研究員が所属する各学校の全体計画、年間指導計画、評価について持ち寄り、情報共有を図り、課題について検討・協議する。

(2) 先行研究の検討

国立教育政策研究所が発行している「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 特別活動】」や自主的・実践的な態度を身に付けさせる指導の工夫の文献研究等を行い、先行実践について検討する。

2 調査研究

(1) 生徒及び教師の特別活動における実態把握とその分析

生徒たちの人間関係や自主的・実践的な態度の現状を把握するため、生徒に対してアンケート調査を行う。また、教師に対しても特別活動の指導や評価についての実態を把握するため、アンケート調査を行う。

(2) 実践研究・検証授業の実践と効果の検証

ジグソー法を取り入れるとともに、取組カード、評価カードを工夫・活用し、授業実践する。また、授業後には再度、生徒へのアンケート調査を行い、その効果を検証する。

IV 研究構想図

研究の背景

【生徒の実態】

- ・自分自身を表現することが苦手である。
- ・他者とのコミュニケーション能力が低い。
- ・他者との関わりの中で自分に自信がもてずにいる。
- ・人間関係に不安を感じている生徒が多い。
- ・社会性が身に付いていない（社会性の育成が不十分である）。
- ・互いを認め合うことや、関わり合うことに消極的である。
- ・集団の一員としての自覚が希薄である。
- ・自ら進んでものごとに取り組もうとする態度が不十分である。
- ・学級づくりに主体的に取り組もうとする生徒が多い。

【教師の実態】

- ・目標が明確でないまま取り組んでいる。
- ・評価資料を適切に処理できていない。
- ・良い評価は、目立つ生徒に集中しがちである。
- ・どのように評価すればよいか分からない。
- ・教師によって評価にバラつきがある。
- ・学校で作成している評価の観点と評価規準を把握していない。
- ・ワークシートや取組カード等のフィードバックができていない。
- ・事前・事後の活動を意識した指導ができていない。
- ・コミュニケーションや自己表現の場が工夫されていない。

【目指す生徒像】

集団の一員としての自分に自信をもち、自主的・実践的な態度でよりよい人間関係を築こうとする生徒

【研究主題】

**よりよい人間関係を築くための
自主的・実践的な態度を身に付けさせる
学級活動の指導と評価の工夫**

【仮説】

生徒が自分に自信がもて、互いに認め合えるような学級活動の指導と評価の工夫を教師が行うことで、生徒は自主的・実践的な態度が身に付き、よりよい人間関係が築けるであろう。

【方法と内容】

- ①基礎研究 文献・資料による研究
「中学校学習指導要領」「中学校学習指導要領解説 特別活動編」「生徒指導提要」
「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校 特別活動」 他
- ②調査研究 生徒及び教師の実態把握とその分析
- ③実践研究 検証授業の実践、取組カード・評価カードの工夫、研究全体の検証、考察

V 研究の内容

1 調査研究

本研究では、調査研究として「学級活動で役割と責任をもって取り組むことができる」、「自分の意見や考えを言うことができる」などの生徒の実態を把握するため、生徒へのアンケート調査を行った。また、教師に対しては、特別活動の指導等に関する実態調査を行い、その問題点や課題を整理した。

(1) 学級活動に関するアンケート調査

本研究では、自尊感情測定尺度（平成 22 年度東京都教職員研修センター）と昨年度の特別活動の教育研究員が開発した「他者を尊重する測定尺度」を参考にし、14 の質問項目からなるアンケート用紙（表 1）を作成し、調査（教育研究員所属校の 6 校：594 名）を行った。

表 1 「学級活動に関するアンケート（生徒用）」

これは特別活動に関するアンケートです。今の自分の気持ちや行動に近いものを 1 つ選び、数字に○をつけてください。アンケート中に出てくる『学級活動』とは、時間割の中の『学活』のことを指します。		<small> どちらかと どちらかと あて あて いうと いうとあて はまら はまる あてはまる はまらない ない </small>			
①	自分には良いところがある。	4	3	2	1
②	人と意見や考えが違っていても自分が正しいと思うことは主張できる。	4	3	2	1
③	相手の意見や考えが自分と違っていても、相手の意見や考えを認めることができる。	4	3	2	1
④	私は自分の判断や行動を信じることができる。	4	3	2	1
⑤	私は人のために力を尽くしたい。	4	3	2	1
⑥	私には自分のことを必要としてくれる人がいる。	4	3	2	1
⑦	私は学級の誰とでも話すことができる。	4	3	2	1
⑧	私は学級活動での自分の役割に責任をもって取り組んでいる。	4	3	2	1
⑨	学級活動ではみんなのために積極的に取り組んでいる。	4	3	2	1
⑩	学級活動の時間には、自分の意見や考えを伝える場面がある。	4	3	2	1
⑪	学級活動の時間で、自分の意見や考えを <u>紙に書く</u> ことができる。	4	3	2	1
⑫	学級活動の時間で、班員に自分の意見や考えを <u>言う</u> ことができる。	4	3	2	1
⑬	学級活動の時間で、クラス全員に自分の意見や考えを <u>言う</u> ことができる。	4	3	2	1
⑭	学級活動で発言をするとき、恥ずかしいと思うことがある。	4	3	2	1

年 組 番 氏名 ()

アンケート項目⑪⑫⑬の太字・下線は、紙に書く場合、班の中で話す場合、クラス全員の前で話す場合の 3 つの場合を生徒に比較しながら考えさせるために強調表示し、この項目から、生徒の学級活動における表現の状況を把握できると考えている。このアンケートを活用することで、生徒の自信や主体性、実践的態の実態を把握しようとした。また、同様のアンケート調査を検証授業後に行うことで、授業実践による生徒の変容を把握することとした。

検証授業前の調査結果は、図1のとおりである。

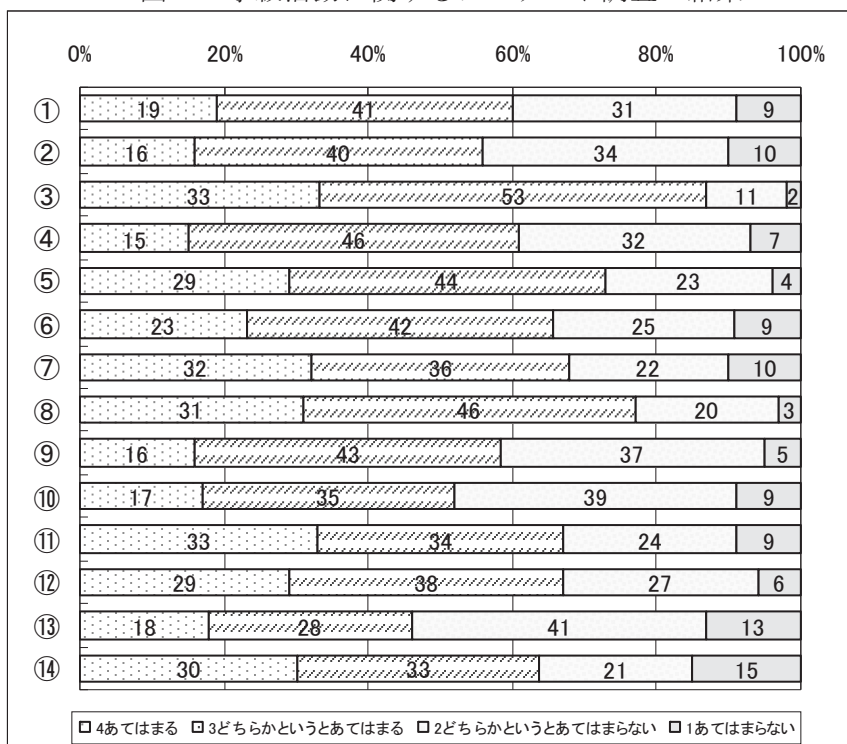
自尊感情に関わる項目①②④⑥では56%～65%の生徒が「4 あてはまる」又は「3 どちらかというにあてはまる」で回答（以下、「肯定的な回答」）している。しかし、「2 どちらかというにあてはまらない」又は「1 あてはまらない」（以下、「否定的な回答」）の生徒のうち、「1 あてはまらない」を選んだ生徒が各項目10%程度いることから、自分に自信をもてず、意見を主張することが苦手な生徒は多いと考えられる。

他者を尊重する態度に関わる項目③では、80%以上の生徒が肯定的な回答をしており、互いに認め合おうとする意識は高いことがうかがえる。しかし、その裏には「自分に自信がもてないから」という背景も推測できる。

生徒の自主的・実践的な態度に関わる項目⑧は、肯定的な回答が77%であった。しかし、残りの23%の生徒は、役割を意識できず、責任をもった行動をとることができていない。この23%の生徒に対し役割を与え、責任をもって取り組めるような指導の工夫が必要である。

項目⑪⑫では、どちらも67%の生徒が肯定的な回答をしているが、項目⑬では46%まで下がっている。したがって、生徒に活発な意見交換をさせるには、紙に書かせる活動又はグループ単位での活動が有効である。また、項目⑪⑫の結果を比較すると、「1 あてはまらない」を選んだ生徒は、項目⑪の方が多かったことから、班の中で話し合い活動をする方が生徒にとっては活動しやすいようである。

図1 学級活動に関するアンケート調査の結果



【主な結果と考察】

- ・自尊感情に関する各項目では、約40%の生徒が否定的な回答をしている。これらの生徒は、自分に自信をもつことができていないと考えられる。
- ・他者を尊重できる生徒は80%以上いる。背景には「自分への自信のなさ」が推測される。
- ・23%の生徒は自分の役割を意識し、責任をもった行動ができていない。これらの生徒の活動を活性化することが、よりよい人間関係を築くための土台となる。
- ・紙に書く場合と班の中で話す場合、クラス全員の前で話す場合では、紙に書く場合と班の中で話す場合の方が、生徒にとって活動しやすい。

(2) 教師の特別活動に関する実態調査

このアンケート（表2）は、特別活動の指導の実態や課題を把握するために、17の質問項目で作成し、調査は教育研究員の所属校の教師（6校：63名）に対して行った。

表2 「教師の特別活動に関する実態調査」

東京都教育研究員特別活動部会では、特別活動の評価についての調査・研究を行っています。つきましては、先生方から調査にご協力をいただき、今後の研究に生かしていきたいと考えています。ご多用のこととは思いますが、ご協力よろしくお願ひいたします。					
		あて はまる	どちらかと いうと あてはまる	どちらかと いうとあて はまらない	あて はまら ない
①	特別活動の目標を意識して取り組んでいますか。	4	3	2	1
②	年間を通して、特別活動を計画的に行っていますか。	4	3	2	1
③	「目指す生徒の姿」を意識して授業していますか。	4	3	2	1
④	特別活動の評価規準は、学校ごとに決められていることを知っていますか。	4	3	2	1
⑤	評価するにあたって、評価規準をもとにしていますか。	4	3	2	1
⑥	学年内で、評価規準を共通理解できていますか。	4	3	2	1
⑦	リーダー以外の生徒の頑張りを評価しようと意識していますか。	4	3	2	1
⑧	リーダー以外の生徒も評価できていますか。	4	3	2	1
⑨	評価の必要性を感じていますか。	4	3	2	1
⑩	教師の観察の他に、生徒のアンケートや作文などの評価資料を有効に活用していますか。	4	3	2	1
⑪	評価資料を生徒にフィードバックするように意識していますか。	4	3	2	1
⑫	評価資料をもとにした、評価の記録を効率よく累積・蓄積していますか。	4	3	2	1
⑬	指導要録の「特別活動の記録」の記載は、担任（記入者）の主観でつけていますか。	4	3	2	1
⑭	通知表の所見の記載は、特別活動の評価を踏まえて記載できていますか。	4	3	2	1
⑮	通知表の所見の記載は、複数の教師の評価資料をもとに記載していますか。	4	3	2	1
⑯	学習指導要領の改訂にともない、よりよい「人間関係」という言葉が追加されたことを知っていますか。	4	3	2	1
⑰	よりよい「人間関係」が築けるような活動の工夫ができていますか。	4	3	2	1

この調査を行うことにより、教師の学習指導要領を意識した取組の度合いや、「評価」の捉え方についての実態把握ができ、教師の視点から課題を考えることができる。

調査結果（図2）では、特別活動の目標と指導計画に関する項目①②③に関しては、教師の約70%が肯定的な回答をしている。学習指導要領に関する項目⑯⑰では、項目⑯の肯定的な回答が50%に満たなかったが、項目⑰では79%が肯定的な回答をしたことを考えると、日常的によりよい人間関係を築けるような指導を行ってはいるが、学習指導要領の改訂に伴い、「よりよい人間関係を築く」ことを特に意識しなければならないことについては、浸透しきれていないことがうかがえる。

項目④～⑫は、特別活動の評価に関する項目である。評価規準に関する項目④⑤⑥では、否定的な回答が約50%となっている。その理由としては、特別活動の評価は学校や学年、学級単位で異なる実態があるためと考えられる。

リーダー以外の生徒の評価に関する項目⑦⑧については、90%以上が肯定的な回答であった。しかし、自信がもてず、積極的に活動に取り組むことや発言することができない生徒が約40%程度いる現状(図1)を踏まえると、指導や評価方法の工夫が必要と考えられる。

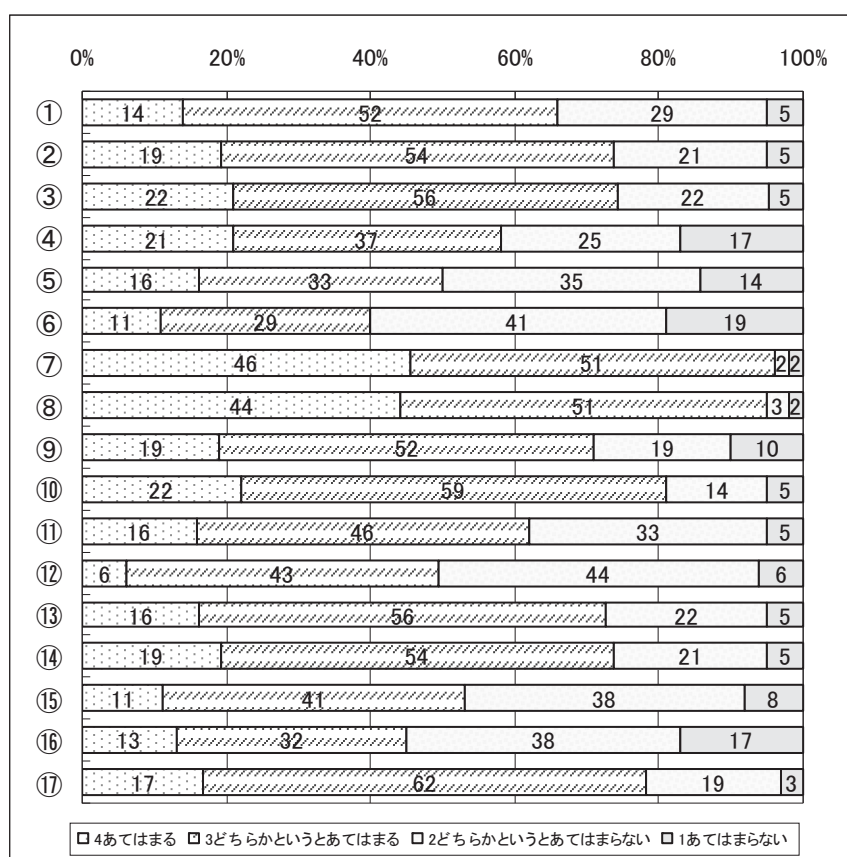
評価の必要性の項目⑨では、71%の教師が評価の必要性を感じているが、その一方で必要性を感じ

ていない教師が29%いる。これは、これまで評価の観点を各学校で設定していなかったことや、特別活動を校内研究のテーマとして取り上げている学校が少ないことなどが背景と思われる。

また、評価資料の活用に関しては、項目⑩で肯定的な回答が81%、項目⑪で62%であったが、項目⑫では49%となっている。このことから、効率のよい累積・蓄積の方法が確立されれば、評価資料が有効に活用されるようになると思われる。

通知表や指導要録に関する項目⑬⑭⑮では、多くの教師が通知表や指導要録を担任主体で記載している現状がうかがえた。担任以外の教師からも評価資料が得られ、収集しやすく、活用しやすい方法が必要である。

図2 教師の特別活動に関する実態調査の結果



【主な結果と考察】

- ・特別活動の目標と指導計画は意識されているが、改訂の要点である「人間関係」が加えられたことは、浸透してない現状がある。
- ・評価資料を効率よく蓄積・累積できていることに肯定的に回答している教師は49%であることから、評価の効率化・妥当性の面から工夫が必要と考えられる。
- ・学年での評価規準の共通理解に肯定的に回答している教師は40%であることや、27%の教師が「目指す生徒の姿」を意識することに否定的な回答をしている。これらのことなどから、より一層適切な評価をすることへの工夫や、評価の活用への工夫が必要ではないかと考えられる。

2 検証授業（1）

(1) 題材 「充実した移動教室にしよう」

内容（1）ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

(2) 題材設定の理由

特別活動の充実が学校生活の満足度や楽しさと深く関わっているが、他方、それらが生徒たちの資質や能力の育成に十分つながっていない状況が指摘されている。自分に自信がもてず、将来や人間関係に不安を感じているといった生徒たちの現状を踏まえると、自分に自信をもたせる必要がある。また、学級が生き生きとしている条件として、一人一人の生徒が自分の役割を認識し、その責任を果たすことや、互いの存在価値を高められる集団であることが大切である。

そこで、移動教室に向けた事前学習の発表を通して、生徒相互の考えや意見を認め合い、協力し合える学級を形成していくことが移動教室への意欲を高めるとともに、生徒たちのよりよい人間関係づくりの育成につながるであろうと考え、この題材を設定した。

(3) 指導のねらい

移動教室に向けた取組の中で、学級集団を高めるための方法について意見を出し合い、それに基づいた実践を通して、学級への所属感や連帯感を高める。

(4) 学級活動（1）の評価規準


集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、他の生徒と協力して自主的、自律的に集団活動に取り組もうとしている。	学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、集団におけるよりよい生活づくりなどについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	充実した集団生活を築くことの意義や、学級や学校の生活づくりへの参画の仕方、学級集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解している。

(5) 指導の過程

ア 事前の指導と生徒の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と 評価方法
9月3日	◇学級委員、班長会議 ・アンケートの集計結果を基に課題を分析し、発表会の目的を意識させる。	・生徒の思いを聞きながら、当日の流れなどを確認（検討）し、活動の見通しをもたせる。	【関心・意欲・態度】 ・話し合い活動が深まるよう、自主的・自律的に準備を進めようとしている。〔観察〕

イ 本時の展開

	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
活動の開始 5分	<p>○本時の目的や流れを確認する。</p> <p style="text-align: center;">カウンターパートグループ (テーマ別グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会の言葉 ・趣旨の説明 ・ジグソー法の確認 (巻末補足資料を参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者には、何を伝えたいのか、ポイントを押さえておくように指導しておく。 	
活動の展開 40分	<p>○カウンターパートグループで各テーマの内容の質を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が調べた内容を基に、グループの内容の協議・検討 ・発表原稿やプレゼン資料の作成・共有 ・自分が調べていないこと、知らなかったことなどを聞き、テーマ内で情報をすり合わせる。 ・全体へのアピールや依頼事項を検討する。 <p>○ジグソーグループに戻り、カウンターパートグループで作成した原稿やプレゼン用紙等を用いて、発表する。</p> <p style="text-align: center;">ジグソーグループ (生活班)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他テーマの内容のメモをとる。 ・質疑応答する。 <p>○個人及び学級としてどのように取り組むのか考え、意見交換する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配布し、書き方と使い方を説明する。 ・小グループで行い、議論や質問をしやすいとする。 ・ジグソー法で発表させ、責任と役割を明確にする。また、発表することで自信をもてるようにする。 ・充実した移動教室とするための各自・学級の取組(実践内容)を考える際、発表内容を踏まえるよう助言する。 	<p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実した移動教室とするための役割と責任を自覚し、意欲的に話し合いや発表に取り組むとともに、発表内容を踏まえた実践内容を考え、述べている。 <p>[観察]</p> <p>[学習カード]</p>
活動のまとめ 5分	<p>○本時の自己評価や感想・反省をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践する内容や感想を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の取組を認め、発表等の成就感をもてるようにする。 ・実践に向けて意欲を高めるようにする。 	

ウ 事後の指導と生徒の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
9月8～ 11日	・話し合い活動における決定事項に基づいて活動する。	・話し合い活動での決定事項を実践しているかどうかを見届け、必要に応じて助言する。	【思考・判断・実践】 ・互いに信頼し支え合って決定事項を実践している。 〔観察〕
9月12～ 15日	移動教室 ・事前の取組や話し合い活動の成果が発揮できるよう、各活動に取り組む。	・これまでの取組を想起し、活動意欲が高まるように助言する。	
9月19日	・これまでの取組や移動教室を振り返り、互いのよさを称賛する。	・生徒の取組について具体例を用いて称賛する。	【知識・理解】 ・参画の仕方、話し合いの仕方を理解している。 〔振り返りカード〕

(6) 検証授業の成果

ア 検証の視点

今回の授業を計画するにあたり、事前に学級活動の時間における調査を行った。アンケート調査から、本学級では次の特徴が見られた。

- 学級活動で班員に自分の意見や考えを言うことができる割合は、他クラスよりも高い。
(2組 61%、学年平均 51%)
 - 学級活動でクラス全員に自分の意見や考えを言うことができる割合は、他クラスよりも高い。
(2組 49%、学年平均 34%)
 - 他方、学級活動で自分の意見や考えを紙に書くことができる割合は、他クラスよりも低い。
(2組 39%、学年平均 55%)
- ※ 数値は、「4 あてはまる」「3 どちらかというにあてはまる」の合計値

アンケート結果からは、意見や考えを話す準備ができれば、話し合い活動の内容の質を高めることができると考えられる。担任としては、その場の思いつきや雰囲気発言する生徒が多いと感じていることから、質を高めることができれば、自分への自信をもたせることにもつながり、このことは互いの認め合いやよりよい人間関係づくりの基礎となると考えられる。そこで、今回は、次の視点を検証するために授業を行った。

- ジグソー法を取り入れることで、生徒は集団の一員としての自分に自信と責任をもち、自主的・実践的な態度でよりよい人間関係を築こうとする態度を養うことを検証する。
- ジグソー法を用いて意見を出し合うことが、学級への所属感や連帯感を高めることに有効であることを検証する。
- 生徒の発言やワークシートなどの資料を適切に評価するとともに、自己評価や相互評価の場面を設定することが、生徒の関心・意欲・態度の向上につながることを検証する。

イ 生徒の変容

- 学級活動で自分の意見や考えを紙に書くことができる割合は、33ポイント増加した。
(事前 39% → 事後 72%)
- 学級活動で班員に自分の意見や考えを言うことができる割合は、2ポイント増加した。
(事前 61% → 事後 63%)
※ 数値は、「4 あてはまる」「3 どちらかというにあてはまる」の合計値
- 学級活動でクラス全員に自分の意見や考えを言うことができることを問う項目で、「あてはまらない」又は「どちらかというにあてはまらない」と回答する割合が、8ポイント減少した。
(事前 49% → 事後 41%)

今回の話し合い活動を通して、普段あまり積極的に発言することがないといわれている生徒にとっては、自分の意見や考えを述べる機会が設定され、自分の役割を感じているようで、積極的に意見を述べている場面が見られた。また、あまり話し合い活動に参加したがない生徒にとっては役割が与えられていることから、話し合い活動に参加しなければならない状況となっており、普段以上の協力する姿勢が感じられた。今回の授業内容を他クラスにおいても実施したところ、特に、アンケート調査の項目 13 においては、12ポイントの増加(4「あてはまる」「3 どちらかというにあてはまる」の合計)が見られた。

人間関係づくりの面では、「それぞれが丁寧に分かりやすく話してくれて、みんながどれだけががんばったかが分かりました。」「少ししか調べられず、自分の役目をしっかりととはたせませんでした。」などの記述がワークシートからみられ、集団の一員としての自覚を高めることや、よりよい人間関係づくりにつながっているのではないかと考えられる。

他方、カウンターパートグループで内容を高める場面での話し合いの時間が不足していたグループもあったことから、この部分の時間を十分にかけることで責任を果たさせることに対応していく必要があるという課題が残った。

ウ 評価資料の活用

ワークシート(評価資料)の活用として2例あげる。1点目は学級通信の利用である。これは週に2～3通発行しており、授業や行事での生徒の感想や担任の思いや生徒の成長がみられた言動などを掲載している。発言が苦手な生徒の意見も全員で共有することができ、他者理解や互いの認め合いにつながっている。

2点目は、クリアフォルダの利用である。事前にクリアフォルダを人数分掲示しておき、授業が終わる度に差し込んでいく。生徒にとっては、直筆を全員に見られるということで、丁寧にしっかりと書くようになる。また、ワークシートなどの分別の手間も省ける。これらを基に、今回累積シートを作成した。これにより、所見や要録の評価の際に利用できる資料となる。

○ 資料 (学級活動カード)

学級活動カード1 「みなみ移動教室に向けて」

生活班での発表 ※1

発表者	新しく知ったこと	組 番 氏名
みなみ	町が広がっていました。 約1万8千人、1万5千人 車で10時間ほどかかる。特産物 温泉などがある。(1770の温泉)	温泉があるか、 土がまわら、みなみ 温泉など
依頼事項等	町の鳥のうぐいす、町の花のほふき、が見えるといいですね。	
農業	カレーベリー、7月～8月 20種類 みどり9月～10月 4品 9月～11月 30種類	
依頼事項等	くずしものしゃわく量 が多いので、農家でくずしものを育てていたの か。	
谷川岳		
依頼事項等	谷川岳は1770の2、770のほふき、景色が素晴らしい か。	
ダム	9km 藤原ダム、美津子ダム、奈良保ダム	作りのに、 かかりますか？ 後で調べます。
依頼事項等	私たちがいく矢沢ダムは、こちら、量が多い、歴代3位です。 か。	
たのみの里	東京ドーム 70個分、 たくさんある。いろいろな体験が できる。自転車体験も できます。 ※2 か。	
依頼事項等	東京ドーム 70個分の仮設があるのか、その仮設を 見て下さい。	
まとめ	① 10月1日 星がつかない ② メカニクス座、1770の座 ③ 770の座、トラス ④ 星はあつからず移動物。 か。	

※1
充実した移動教室にするために、様々な角度から考え、具体的に示すところもあり、【関心・意欲・態度】の観点に関する評価の参考にすることができる (カード両面を通して)。

※2
「東京ドーム 70 個分、先生 200 人分」など、いかに分かりやすく友達に伝えるかという生徒の工夫がうかがえ、【関心・意欲・態度】の観点に関する評価の参考にすることができる。

※3
「もう一度調べてみようと思った」という記述から、自ら進んで物事に取り組もうとする姿勢が読み取れる。【関心・意欲・態度】の評価の観点に関して十分満足できる活動の状況にあると考えられる。また、「一つの町にもいろいろなことがたくさんあることを知ったので、自分でももう一度調べることができたらいいと思った。」という記述もあった。

学級活動カード1 「みなみ移動教室に向けて」

まとめ

(1) 各テーマの発表を踏まえて、移動教室の準備や当日、どのように取り組もうと思いまし

私の実践

みなみ町特有の自然などを集めるように自分自身
もう一度調べてみようと思った。
自然を体全体で感じてみようと思った。 ※3

学校の実践

① みんなきょうりよくできるように、⑤ 声を出す感謝のきもち
② 自然が多く、たすけあう ⑥ ルールをまもる楽しく移動教室をまわらせる
③ 自分がしごとことに責任をもつ
④ あいかわをかけるように ⑦ たのしみ

(2) 自己評価 ※4

① 自ら進んで取り組もうとした	(A)	(B)	(C)	(D)
② 班の代表として、自分の役割を果たすことができた	A	(B)	(C)	(D)
③ ポイントをおさえて説明することができた	A	(B)	(C)	(D)
④ 自分の意見を述べることができた	A	B	(C)	D
⑤ まわりの人の意見を聞いて生かすことができた	(A)	B	C	D
⑥ 充実した移動教室にしようとする気持ちが高まった	(A)	B	C	D

(3) 本日の話し合い(テーマ別、生活班ともに)を通して、学んだことや感想、反省を書きましょう。また、「よくまとめた」「よく協力していた」などと「光る」人がいたらそのことも書きましょう。

今日の話し合いで、みんな自分の意見をぶつけ合う大切さを知りました。他にも話し合っ、みんなの事を知ることができたと思えました。でも、自分ばかりの意見を言うのには、みんなの意見を聞いて、それと良かったと思えました。 ※5
[今日「光っていた人」とその理由]

みんな！ 少ない時間の中、まとめた、発表することができたから。

※4
生徒の自己評価を、教師の評価の参考にすることも考えられる。
また、生徒の自己評価の力を高めるため、1 単位時間ごとに話し合い活動を振り返らせるだけでなく、学期末等にそれまでに記入したカード全体を振り返る場を設けることも大切である。

※5
良かった点だけでなく改善点についての記述もあることから、自分自身の表現、他者とのコミュニケーション、他者との関わりなどの自信がもてたとも読み取れる。また、学級集団の変容について評価を行う際の参考にすることも考えられる。

3 検証授業（2）

- (1) 題材 「よりよいクラス合唱にするために～音楽祭の大成功に向けて～」
 内容 （1） ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

(2) 題材設定の理由

本題材「よりよいクラス合唱にするために～音楽祭の大成功に向けて～」では、本校の特色の一つでもある合唱を通して、中学校最後の音楽祭の成功のために、生徒同士が自主的な力を発揮し、互いを理解し合いながら実践活動を行うことで自信をもち、積極的に学級集団を高めていきたい。また、話し合い活動を通して自己評価や相互評価を行い、互いを認め合い尊重する態度を高め、よりよい人間関係を築き、一つの目標に向かってより団結できる集団として成長させたいと考え、本題材を設定した。

(3) 指導のねらい

音楽祭に向けた取組の中で、学級集団を高めるための方法について合意形成し、合意形成に基づく実践を通して、互いに認め合ったり協力し合ったりしながら、よりよい人間関係を築き、学級への所属感や連帯感を深める。また、事前活動から事後の活動まで、適切な機会に学級活動カードを効果的に用いた評価を行うことで、集団活動をより活性化させていく。

(4) 学級活動（1）の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の集団活動に関心をもち、他の生徒と協力し、積極的に集団活動に取り組もうとしている。	学級や学校の集団の一員として、自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見も尊重できている。集団におけるよりよい生活づくり、人間関係などについて考え、判断し、自己を生かして実践している。	よりよい集団活動を築くための意義を理解し、学級や学校の集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解している。

(5) 指導の過程

ア 事前の指導と生徒の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と 評価方法
10月11日	◇代表者会議 ・次時の話し合い活動の柱を設定し、流れを確認、検討する。	・明確に趣旨説明できるように、必要に応じて補足説明を行う。	

イ 本時の展開

	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と 評価方法
活動の開始5分	○開会の言葉（実行委員） ○本時の議題発表と確認 （実行委員） ○教師の話（諸連絡）	・カウンターパートグループに分かれて着席する。 ・代表者会議（実行委員、サポート委員等）の検討の経緯を説明するよう助言する。	

<p>活動の展開 ① 25分</p>	<p>○話し合い活動① (カウンターパートグループ) 音楽祭の目標実現のための方法について、ジグソー法を用いてカウンターパートグループで話し合い活動を行う。</p> <p>○話し合い活動②で伝える内容を画用紙に記入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・司会は各リーダーが行う。 ・リハーサルのVTRから気付いたことを話し合う。 ・前時の学級活動カード「最高の音楽祭にするための作戦」について提示しながら話し合い活動させる。 ・経験を踏まえながら、多角的に考えるよう助言する。 ・話し合い活動①をまとめる。 ・グループの代表者の画用紙をクラス掲示する旨を伝える。 	<p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの意見を生かし合いながら、最高の音楽祭にするための具体策を考え、まとめ、述べている。 <p>[観察] [学級活動カード]</p>
<p>活動の展開 ② 15分</p>	<p>○話し合い活動② (ジグソーグループ) ジグソーグループで共有する。</p> <p>○質疑応答 他テーマのグループから質問や意見が出れば取り入れ、共有する。</p> <p>○自己・相互評価の記入 発表に対する意見を学級活動カードの相互評価欄に記入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ジグソーグループに移動 ・司会は班長が行う。 <p>・発表でよくまとめていたところ、協力していたところ、良かったところについて簡潔に記入させる。</p>	<p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの意見を生かし合いながら、最高の音楽祭にするための具体策を考え、まとめ、述べている。 <p>[観察] [学級活動カード]</p>
<p>活動のまとめ 5分</p>	<p>○個人目標の記入</p> <p>○教師の話(諸連絡)</p> <p>○閉会の言葉(実行委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの流れを方向付けた発言や実行委員等の活動を賞賛するとともに、実践に向けた意欲を高める。 ・今後の目標を学級活動カードに記入するよう助言する(記入に時間が必要であれば翌日までに提出させる)。 	<p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの意見を生かし合いながら、最高の音楽祭にするための具体策を考え、まとめ、述べている。 <p>[観察] [学級活動カード]</p>

ウ 事後の指導と生徒の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
<p>10月13日 ～23日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動における決定事項に基づく練習計画を実践する。 ・これまでの活動の成果を振り返り、まとめを行いながら活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動での決定事項を実践しているかどうかを見届け、必要に応じて助言する。 ・生徒の活動意欲が高まるよう助言する。 	<p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の実現に向け、互いに信頼し支え合って決定事項を実践している。[観察]

10月24日	◇音楽祭 ・これまでの話し合い活動や放課後の活動の成果が実るよう、目標の実現に向けて合唱する。	・これまでの取組を想起させ、生徒の活動意欲が高まるよう助言をする。	
	◇振り返り活動・事後アンケート ・これまでの取組や音楽祭を振り返り、互いの良さを賞賛する。 ・一連の活動を通して気付いたことや学んだことを、振り返りカードにまとめるとともに、今後の学校生活の在り方について考える。	・生徒の活躍について、具体例を示して賞賛する。 ・成果と課題を具体的に記入するよう助言する。	【知識・理解】 ・音楽祭の成功に向けて、学級で取り組むことの意義について理解している。 [振り返りカード]

(6) 検証授業の成果

ア 検証の視点

今回の授業を計画するにあたり、事前に学級活動の時間における調査を行った。アンケート調査から、本学級では次の特徴が見られた。

- 学級活動での自分の役割に責任をもって取り組んでいる割合が、他クラスよりも低い。(1組 65%、学年平均 70%)
- 学級活動で自分の意見や考えを伝える場面があると感じている生徒の割合が、他クラスよりも低い。(1組 32%、学年平均 46%)
- 学級活動の時間で班員に自分の意見や考えを言うことができる割合は、他クラスよりも高い。(1組 70%、学年平均 50%)

※ 数値は、「4 あてはまる」「3 どちらかというにあてはまる」の合計値

アンケート結果からは、自主的、実践的な態度を伸ばしていくことや、自分の意見や考えを伝えるための場면을意図的にもたせることが必要であり、これらを通して、自分への自信や、互いを認め合える効果が期待でき、よりよい人間関係づくりにつながれると考えられる。また、これらのことは、教科での学習で行われる話し合い活動にもよい影響を与えることになる。今回は次の視点を検証すべく授業を行った。

- 検証授業(1)で取り入れたジグソー法を踏まえて話し合い活動を行い、集団の一員としての自覚と責任をもたせ、決定した事項を実践させていくことで自分自身に自信をもたせ、よりよい人間関係づくりの育成に有効であることを確認する。
- 自己評価と相互評価を意図的に取り入れ、互いに認め合い協力し合う活動を通して、学級集団の人間関係や所属感、連帯感を高めることに有効であることを確認する。
- 学級活動カードや練習の記録等の取組による資料を適切に評価・活用することで、生徒の関心・意欲・態度の向上につながることを確認する。

イ 生徒の変容

検証授業を終え、音楽祭の取組が終了してから、事後調査を行った。特徴的であった点については、次の変容が見られた。

- 学級活動で自分の役割に責任をもって取り組んでいる割合が、7ポイント増加した。
(事前 65% → 事後 72%)
 - 学級活動で自分の意見や考えを伝える場面があると感じている生徒の割合が、20ポイント増加した。
(事前 32% → 事後 52%)
 - 学級活動の時間で班員に自分の意見や考えを言うことができる割合が、13ポイント増加した。
(事前 70% → 事後 83%)
- ※ 数値は、「4 あてはまる」「3 どちらか」というあてはまるの合計値

ジグソー法による話し合い活動を通して、一人一人が役割と責任を自覚して取り組む姿勢が高まり、班での話し合い活動が互いの考えを理解するのに効果的であった。決定内容はテーマごとに教室掲示し、各リーダーが中心になって実践の確認を含めたテーマ別による振り返り活動を行うことで、学級集団の更なる連帯感や結束力を深める機会となった。

評価資料の活用については、学級活動カードの自己評価や相互評価の内容について、教師から言葉による伝達や学級通信への掲載を行うことで、中心的な存在の生徒だけでなく、フォロワーとして活躍している生徒たち一人一人がどのように感じ、考えているのかを共有し、自己理解や相互理解を深めるための支援を行った。その結果、よりよい人間関係を築くための自主的・実践的な態度を育むことができた。

また、実行委員やサポート委員が中心となり、自分たちの意思により積極的に活動できるようになってきたことも大きな成果である。自作の通信やプリントを作成し、学級の生徒に配布するなどの意欲的な面が見られるようになったこともあり、生徒同士による、よりよい集団活動が実践された。

○ 資料 (学級活動カード)

※1

音楽祭の目標を達成するための方法について、様々な角度から考え、理由と併せて示すことができている、【関心・意欲・態度】の評価の観点に関して、十分満足できる活動の状況にあると考えられる。

学級活動カード「最高の音楽祭にするための作戦を考えよう」

3年 1組 番	役割分担 (0で記入) 合唱パート(ソプラノ・アルト・テノール・バス) ・実行委員 ・サポート委員 ・パートリーダー ・指揮者 ・伴奏者
氏名	
活動目標 (音楽祭学級スローガン) 青い鳥へ今始まる私たちのステージへ	
話し合い活動① 「テーマ別話し合い」	
【話し合いテーマ (班)】 1ソプラノ班 2アルト班 3テノール班 4バス班 5合唱(ソプラノ)班 6練習計画の改善・演出班	
役割分担 ・司会 [] ・メンバー []	
自分の考え・意見 もっと小さくするといい、大きくするといいをぼーっとして歌うといい!! 高いところは普通に歌うより、のどがはやくお腹に力を入れると通力が強くなると思う 低いところは口をそろえて歌うのと、口をそろえて歌うのとでは、声のボリュームを変え、 言葉をはっきりさせたいと思う	
テーマ別グループで決定したこと (話し合い活動②で伝える内容) ・強弱と言葉をはっきりさせる。 ・練習方法の改善 (アドバイスしたり、フレーズ一つ一つの確認、母音をつつと歌うのを確認) ・歌い方の改善	
※ 決定したことは、伝える内容を簡潔にまとめ、画用紙に記入する。	
◎テーマ別グループで決定した内容を通して →音楽祭に向けて、自分の役割をどのように取り組んでいくか。 みんなに「もっとべしほしい。」とか色々と言う側(指揮者から) なので、一歩リードしてみんなを引っ張って行けるように 指揮にもみんなをかわって行きたい。 ※1	

話し合い活動②「決定したことの共有」	
役割分担 ・司会〔 〕 ・メンバー〔 〕	※ 発表者は、決定事項を記入したカードを見せながら説明する。
「話し合い活動全体を通して」	
◎自己評価 (活動の振り返り) (A:とてもあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない)	
1 お互いの意見を尊重しながら、音楽祭に向けてよりよい作戦を立てることができた。→ <input checked="" type="checkbox"/> A・ <input checked="" type="checkbox"/> B・ <input checked="" type="checkbox"/> C・ <input checked="" type="checkbox"/> D	
2 話し合い活動で自分の意見を述べることができた。→ A・ <input checked="" type="checkbox"/> B・ <input checked="" type="checkbox"/> C・ <input checked="" type="checkbox"/> D	
3 各テーマでの決定事項を理解し、活動意欲が高まった。→ <input checked="" type="checkbox"/> A・ <input checked="" type="checkbox"/> B・ <input checked="" type="checkbox"/> C・ <input checked="" type="checkbox"/> D	
◎相互評価 (全体を通して「よく働いていた人」「よく発表していた人」「よくまとめていた人」など、光っていた人を 【本日の話し合いで光っていた人とその理由】)	
君が光っていました。なぜなら、司会をや	
り人々が発表していた意見をよくまとめていた	
です。	
◎活動全体を通して (自分の取り組み目標)	自分の話し合いテーマ内容の修正・決定に対して、どのように取り 他のテーマの決定事項をどのようにいかしていくか。

※2 a

最高の音楽祭にするために、学級全体の決定事項も踏まえ、学級の一員として自己の役割と責任を自覚し、これからはすべきことについて適切な判断を行っている様子がうかがえる。

話し合い活動をして、決めた取り組みを実践して いきたいと思います。意識が高まりました。これ は、自主練習をして、音程をとり、大きい声で自信 歌うことが目標です。金賞取るぞー
※2 a
担任より

※2 b

音楽祭の取組みを通して、学級の一員として役割と責任をもって貢献し、実践できた様子がうかがえる。【思考・判断・実践】の観点に関する評価の参考にすることができる。

学級活動カード②「音楽祭を振り返って」

3年1組 番 氏名
1. 音楽祭本番までのクラスでの練習はどうでしたか。自分はどのように貢献し ましたか。 練習中に全員と行うことはできなかったけど、みんなをよほど頑張らせたと思 う。自分は道具の準備等サポート委員として実行委員を支えた。
※2 b

2. 音楽祭に向けての練習や、当日の発表を通して、学んだことや感想・反省を書きましょう。
運動会では意気込んでみんなをまとめるつもりで頑張ったけど、感じど ろい仕事で、裏方にまわったことでの大成功が分かり、私が運動会の時に表に出 るまで支えてくれた人がたくさんいたのを感じました。 全員で歌えなくて残念でしたが、ちゃんといい声が出たと思います。 (盛り上がる時と話を聞く時の切り換えをもっと速くできるといい。特に男子)
3. 今回の音楽祭の活動を通して、クラスはどのように変わったと思いますか。
みんなが、いろんな人と話さうようになったかなーと思う。 特に女子は、あまりワイルドな意識をしなくなったと思う。
※3

※3

学級活動を通して、学級がまとまっていた様子を読み取ることができる。このような記述から、学級集団の変容について評価を行う際の参考にすることも考えられる。

4. 今回の経験を、これからの学校生活にどのように生かしていこうと思いますか
残された行事は野球大会と卒業式だけになりましたけど、 運動会、音楽祭に本気で頑張りたい。自分にできる限りのことをしたい。 その前に受験があるので、みんなを乗り越えたい。 (昼休みなど、クラスとして勉強する雰囲気をつくってほしい)
※4

※4

集団活動の意義について、体験を通して理解した様子がうかがえる。【知識・理解】の観点に関する評価の参考にすることも考えられる。

VI 評価の累積化について

1 評価資料の累積化の必要性

教師に対して行った実態調査の「評価の記録を効率よく累積・蓄積していますか」の項目では、「どちらかというとはまらない」又は「あてはまらない」に回答（以下、「否定的な回答という。」）した教師は49%であった。各活動で評価はしているものの、記録を効率よく累積・蓄積できていない現状が明らかとなった。教育研究員の経験からも、授業観察による記録や生徒が記述した学習カードなどの評価資料はあるが、効率よくまとめられておらず、学期末・年度末の総括的な評価や指導要録へ記録を記入する段階で、再度、評価資料を見直さなければならないなどの状況がある。

2 評価の累積シート

これらの問題を解決するために、効率よく評価資料を累積し、それらを基にした妥当性のある評価を行うことができるよう、「学級活動評価資料累積シート」（図3）を活用した。

図3 学級活動評価資料累積シート

内容	評価規準		1 学 期				
			期日・評価	項 目			メ モ
				カード	活動	その他	
(1) 学級や学校の生活づくり	集団活動や生活への関心・意欲・態度	学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、他の生徒と協力して、自主的、自立的に集団活動に取り組む。	4/25 ○				<p>どのような項目から判断したのか、項目欄にチェックを入れる。このことで、多くの資料の中からの確認が行いやすく、学期末や年度末に振り返る必要性が生じた場合等に確認しやすくなる。</p>
		活動後などの機会を捉え、評価の観点に照らして、「十分満足できる状況」にあると判断できる場合に○を記入する。	7/4 ○	<input checked="" type="checkbox"/>			
	集団一員思考・実践	協力し、信頼し支え合って実践している。					
集団活動や生活について知識・理解	充実した集団生活を築く	6/2 ○	<input checked="" type="checkbox"/>			6/2 運動会での集団活動の意義を、体験を通して理解した。	<p>生徒の活動状況等をメモ欄に記入しておくこと、振り返りやすい。メモを記入しておくことにより、通知表や指導要録の所見の参考にするなどの活用もできる。</p> <p>十分満足できる活動の状況と判断されない場合であっても、状況によっては記載し、参考資料とする。</p>

VII 効果の検証と提言

1 効果検証の概要

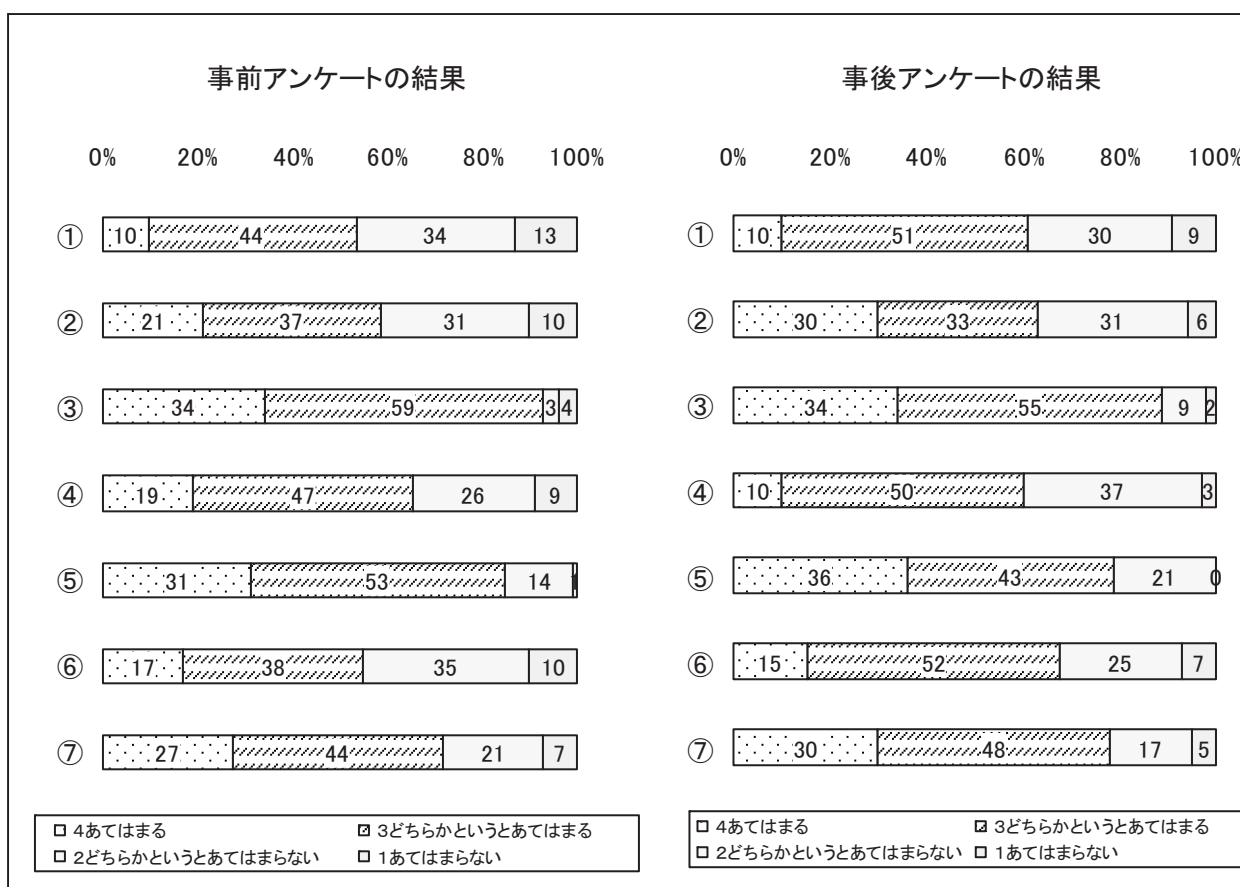
研究課題に対する実践を行った結果を考察するために、効果検証を行った。

学級活動の時間における調査は、検証授業を行った2校（中学校第2学年・第3学年の各1学級）の2学級70名で実施した。

2 効果検証の分析と考察

検証授業の効果を検証するため、事前と事後で学級活動に関する意識の調査をし、比較を行った。これらの変化をよく見るため、それぞれの項目で事前と事後の変化を棒グラフで表した（図4及び図5）。左から順に「4 あてはまる」、「3 どちらかというにあてはまる」、「2 どちらかというにあてはまらない」、「1 あてはまらない」となっている。

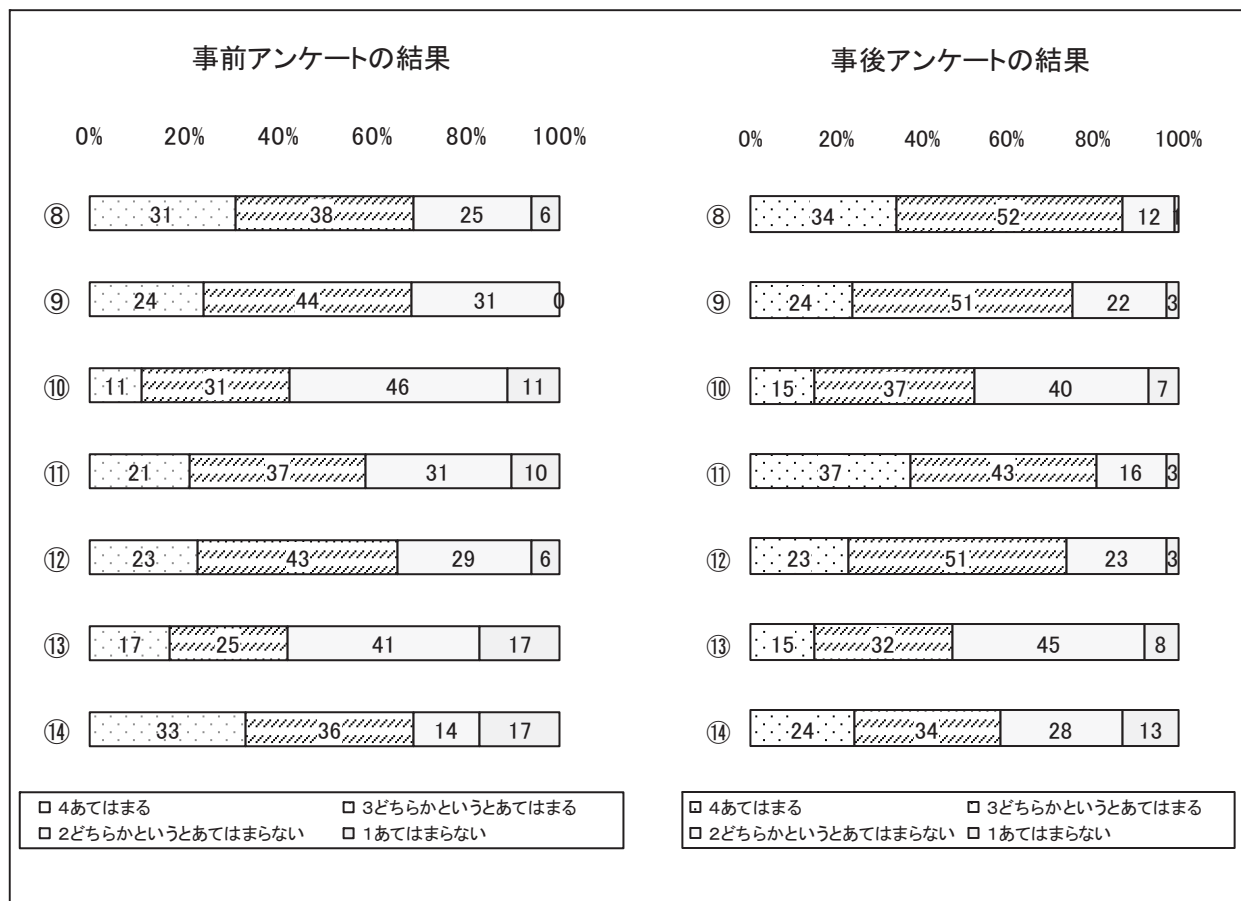
図4 学級活動に関する意識の比較①



項目①から項目⑦で特徴的な事項を挙げてみる（図4）と、項目⑥「自分のことを必要としてくれる人がある」では「4 あてはまる」又は「3 どちらかというにあてはまる」で回答した割合（以下、「肯定的な回答」という。）が、55%から67%と12ポイント増加した。このことは、検証授業においてジグソー法を取り入れたことで、生徒に役割と責任を果たそうという姿勢がみられるようになり、自信をもって実践活動に臨むことができたことが要因

になっていると思われる。そして、このことが学級活動を通して、自分の意見や考えを伝え、相手の意見を受け入れようとする態度を育み、自他の存在を認め合い、必要としてくれるように感じたのではないかと考察できる。その結果として、学級内のコミュニケーションが活発になり、項目⑦の「学級の誰とでも話すことができる」で肯定的な回答が71%から78%へと増加し、よりよい人間関係を構築するための態度が身に付いたと考えられる。

図5 学級活動に関する意識の比較②



項目⑧から項目⑭の項目（図5）では、項目⑧と項目⑨のどちらの項目とも、事後の方が肯定的な回答をした生徒が増加しており、特に、項目⑧「自分の役割に責任をもって取り組んでいる」では17ポイントの増加となっている。また、項目⑨「みんなのために積極的に取り組んでいる」に肯定的に回答した割合は7ポイントの増加であり、「2 どちらかというにあてはまらない」に回答している生徒は、9ポイント減少している。役割と責任をもって取り組むことが、生徒の積極的な行動につながっていると考えられる。

学級活動の時間の状況や生徒の発言等の表現に関する項目である項目⑩から項目⑭では、全ての項目において、意見を表現することに関して抵抗感が少なくなったことが読み取れる。特に、項目⑪「自分の意見や考えを紙に書くことができる」で肯定的な回答としている生徒は、58%から80%と22ポイント増加した。発言することが苦手な場合であっても、紙に書いて伝えたり、紙に書いた上で伝えたりすることができるようになってきていることが考察でき

る。そのため、項目⑭「発言をするとき、恥ずかしいと思うことがある」で肯定的に回答した生徒が69%から58%と11ポイントの減少につながったのではないかと考えられる。意見を発表することで反対されたり、変に思われたりしないかという不安が取り除かれ、自信をもって集団活動に取り組み、互いに認め合える関係を築けたのではないかと推測できる。

以上のように、本研究において検証授業を行った学級では、多くの項目で肯定的に回答する生徒の割合が増加したことが読み取れる。ジグソー法による話し合い活動を取り入れることで、生徒一人一人が、役割と責任を意識し、自らすすんで物事に関わることや目標に向けて協力して取り組むことの充実感や達成感を得ることにつながったと考えられる。また、自己評価と相互評価を効果的に取り入れるとともに、教師の評価も併せて効果的に活用したことにより、生徒同士が互いを理解し、自分に自信がもて、前向きに活動に取り組む姿勢や思いやりのある発言・行動につながったと考えられる。今回の取組は、生徒のよりよい人間関係の構築において効果をもたせることができたと言える。

3 研究の提言

検証授業の成果及び検証授業後の調査の結果を受けて、研究のねらいに迫る手だてとして、有効であった指導と評価の工夫について次のようにまとめ、本研究の提言とする。

【学級活動における指導の工夫】

- ジグソー法による話し合い活動を活用し、生徒一人一人が役割と責任を意識した活動ができるように配慮する。
- 学級活動カード等を用いた授業展開を図り、一人一人に目標やねらいをもたせ、取組の中で振り返りを繰り返しながら、目標やねらいを確認させ、自主的・実践的な態度を身に付けさせていく。
- 生徒が自主的・実践的な態度で活動を行っていくために、事前、本時、事後の活動までの取組を意識した流れを計画し、指導を行う。

【学級活動における評価の工夫】

- 話し合い活動等を通して、自分自身を客観的に見つめたり、他者に対する理解を深めたりする自己評価や相互評価を行う場面を設定する。
- 事前、本時、事後の活動までの生徒の取組過程を、設定した「目指す生徒の姿」に基づいて適切に評価し、評価結果を生徒の活動に生かしていく。
- 評価資料累積シートを活用し、生徒の活動の様子を効率よく累積し、評価の妥当性・信頼性を高める。

VII 研究の成果と今後の課題

本研究は、各中学校における生徒や教師の実態に着目し、「よりよい人間関係を築くための自主的・実践的な態度を身に付けさせる学級活動の指導と評価の工夫」をテーマとした。具体的には、指導の工夫としてはジグソー法を用い、評価の工夫としては、生徒による自己評価や相互評価場面の設定、生徒及び教師による評価の活用、教師評価の累積化等を行った。これらのことを意図的に実施・活用することで、生徒は集団の一員としての自分に自信をもち、自主的・実践的な態度でよりよい人間関係を築こうとするであろうという仮説の下に研究を進めた。研究の成果と課題は次のとおりである。

1 成果

(1) 指導の工夫

ジグソー法を取り入れたことで、図5（20ページ）にあるように、「自分の役割に責任をもって取り組んでいる」と回答する生徒は、事前と事後の調査で17ポイント増加しているように、自覚して取り組もうとする姿勢が高まった。

そして、その後の学級の様子からは、音楽祭に向けて男子のパートリーダーが歌う前に全体への言葉掛けを行ったり、練習を休まずに参加して協力の姿勢を見せたりするなど、自分の役割を意識した言動が見られた。このような機会を通して、生徒は自分に自信がもてるようになり、互いに認め合ったり主張を受け入れたりする姿勢、互いに主張し合える関係など、よりよい人間関係を構築するための態度が身に付いた。

ある生徒の学級活動カードには、「話し合い活動での取組があったお陰で、お互いの気持ちも理解でき、行事に対して前向きになれて、前よりも一緒にやろうという気持ちが強くなった。」など、認め合いだけでなく、その後の実践へ前向きに取り組むとともに、よりよい人間関係づくりへの態度が養われていると考えられる記述も見られた。

(2) 評価の工夫

ア 学級活動カードの活用

これまでも「学級活動カード」等の名称で、自分の考えや意見を記載する項目はあり、生徒に書かせ、担任教師はその内容を把握していた。そして、教師によっては、その内容を評価資料とし、評価の参考にしてきた。しかし、本研究では評価資料の一層の活用が必要ではないかと考え、事前の活動、本時の活動、事後の活動における「目指す生徒の姿」の明確化を図り、「学級活動カード」の中の記述からも評価の参考となる記述を拾い上げようとした。このことは、一人一人の生徒のカードを丁寧に見ることが必要となるが、生徒個々の意欲や思考等を把握することができ、評価の妥当性を高めることにつながった。また、生徒理解を深めることにもつながり、多面的・多角的に生徒の状況を把握することにもつながった。

自己評価や相互評価は、事前の活動において「自分の考えや意見」を記載させていたこともあり、何を評価するのかが生徒にとって明確になったようで、検証授業の前と比べると、具体的な内容を書く生徒が多く見られた。

イ 評価資料の活用

話し合い活動で決定した事項を教室に掲示したり、実践内容を共有したりした。そして、その取組状況や態度等を教師が口頭で伝えたり、学級通信を用いたり、実践内容について生徒同士が話せる場を朝の会や帰りの会で設定することなどを行った。各生徒の実践内容を共有化することで、教師や生徒同士が賞賛する場面が多く見られるようになった。このような評価が行われることで、生徒は自分に自信をもてるようになり、意見を出し合い、話し合える関係性が深まり、その後の活動でよりよい人間関係が築けるようになった。

また、評価資料があるものの活用されていない状況があるとの考えから、評価資料の累積化を行った。累積化するためのシートがあることから、授業者にとっては、授業後に記載するために本時の「目指す生徒の姿」を確認する、生徒の様子をよく観察するといった心理が働いた。活動後に記載するためには、機会を捉えてその時間を設定する必要があるが、生徒の様子を通年で把握できることや、年度末に特別活動の評価を総括するための時間的な縮減につながるものと捉えている。

今回、ジグソー法によって生徒一人一人が役割と責任をもって話し合い活動に臨んだことで、生徒には積極的にコミュニケーションをとろうとする意識が高まった。その上で、学習カードの活用を図り、自己評価や相互評価の場を設定したことで、生徒は自分自身を客観的に捉え、他者への理解を深めることができた。このことも、よりよい人間関係づくりにつながった。

2 今後の課題

学習指導要領の改訂に伴う学習評価の改善の中で、特別活動については、各学校において評価の観点を設定することなどの改善点が示された。その趣旨を生かすためには、今一度、各校の特別活動における課題を確認し、育てたい生徒像やそのための指導計画・評価計画、効率的な評価などを検討していくことが大切である。

今回、本研究では特別活動の学級活動で取り組んだが、実際、本研究員の学校行事（体育大会）において、教師対象の調査を行ったところ、ほぼ全員の生徒に対して、「十分満足できる活動の状況」である「○」を付けている教師がいる一方で、全く「○」を付けていない教師がいるなど、ばらつきが顕著に見られた。その要因としては、「目指す生徒の姿」への意識が薄かったり、共通認識がもたれていなかったりすることが考えられる。さらに、教師の調査結果から推測すると、適切な評価の蓄積がなされていないことも考えられる。担任教師以外が関わることの多い学校行事や生徒会活動において、生徒の評価をどのようにして集約していくのか、その集約方法や活用の仕方に関しても課題である。教師相互の共通理解の下、さらなる検討を深めていくことが求められる。

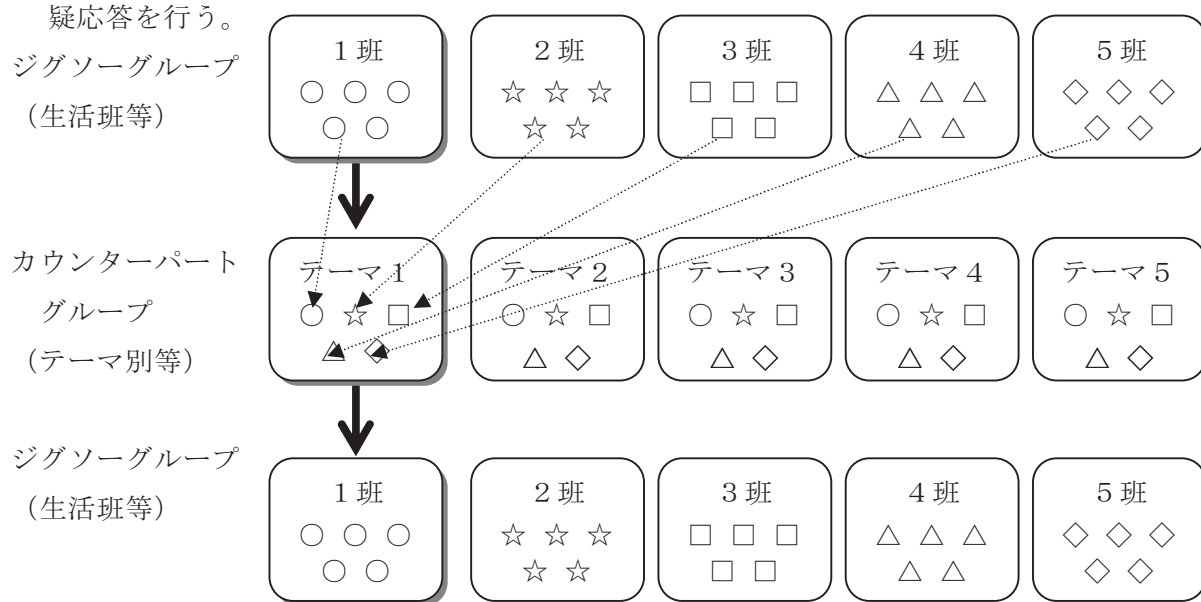
補足資料 ジグソー法について

○ ジグソー法の概要

班活動において、特定の生徒が全てを行ってしまうことがある。このようなことを避けるためにジグソー法という学習方法がある。アメリカの社会心理学者エリオット・アロンソンらが提唱した学習スタイルで、誰もが発表者となり表現力、思考力を高める有効な学習方法である。

○ ジグソー学習の手順

- ① 生活班などを利用し、ジグソーグループ（仮に5名とする）を編成する。
- ② ジグソーグループの中で、いくつかに分かれたテーマ（1～5）の一つを各自が分担する。
- ③ 次に、他のジグソーグループの同じテーマを担当する生徒同士で、カウンターパートグループを編成する（テーマ別等）。同じテーマの者同士で、意見交換や調べた内容を深め合う。
- ④ 元のジグソーグループに戻って、学習成果を他のメンバーが分かるように報告し合い、質疑応答を行う。



○ ジグソー学習の効果・留意点

〔効果〕

テーマ1の生徒は他のテーマの内容を知らないことから、ジグソーグループにて、互いに教え合う状況が設定されるため、情報交換の必然性が生まれる。学習者間の経験のやり取りが活発に行われ、生徒相互の関わりは深くなる。

〔留意点〕

自分が担当したテーマしか意見交換しないことや調べないという問題がある。そのため、各ジグソーグループでの意見や質問と共に、それらを踏まえた全体での内容の共有化を図ることが大切である。状況によっては、補充的な学習として他のグループのテーマも調べることを行わせたりするなど、生徒の実態に応じて工夫改善していくことが重要である。

参考文献

- ・千葉県学校教育情報ネットワーク「定時制におけるコミュニケーション能力の向上を目指して」
- ・名古屋市特別活動実践研究会 2004 年紀要
- ・茨城県教育研修センター「個に応じた指導のための指導方法の工夫例」

平成24年度 教育研究員名簿

中学校・特別活動

地区	学校名	職名	氏名
中央区	晴海中学校	教諭	◎小川 賢
豊島区	巣鴨北中学校	教諭	栞原 允
江戸川区	小松川第二中学校	教諭	井手 歩
武蔵野市	第二中学校	教諭	佐藤 智巳
東村山市	東村山第五中学校	主任教諭	吉川 滋之
檜原村	檜原中学校	主任教諭	○加藤 大介

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課

統括指導主事 坂本 教喜

指導主事 佐藤 達哉

平成24年度
教育研究員研究報告書

中学校・特別活動

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成24年度第243号〕

〔平成25年 3月〕

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6882
印刷会社 株式会社 イマイシ